高等学校日语教材

第四册

新大学日本语

大连外国语学院日本语学院　组织编写

主　审　陈　岩
主　编　蔡全胜
　　林乐常
　　盛　凯
　　肖　爽

本教材为教育部高校外语
专业面向21世纪教学内容
课程体系改革课题立项项目

大连理工大学出版社

新KGB密码

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高等学校日语教材

新大学日本语

第四册

大连外国语学院日本语学院　组织编写

主　审　陈　岩
主　编　蔡全胜　林乐常
　　盛　凯　肖　爽

大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

新大学日本语(第四册)/蔡全胜等主编 .—大连:大连理工大学出版社,2001.3

(高等学校日语教材)

ISBN 7-5611-1829-5

Ⅰ.新… Ⅱ.蔡… Ⅲ.日语-高等学校-教材 Ⅳ.H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2000)第 37353 号

大连理工大学出版社出版发行
大连市凌水河 邮政编码:116024
电话:0411-4708842 传真:0411-4701466
E-mail:dutp@mail.dlptt.ln.cn
URL:http://www.dutp.com.cn
大连理工印刷有限公司印刷

开本:787 毫米×1092 毫米 1/16 字数:406 千字 印张:17.75
印数:1—6000 册
2001 年 3 月第 1 版 2001 年 3 月第 1 次印刷

责任编辑:王佳玉 宋锦绣 责任校对:萧 音
封面设计:金 中

定价:25.00 元

前　言

进入 21 世纪，以信息技术为主要标志的新科技革命将更加突飞猛进地发展，世界各国的经济合作与相互竞争、文化交流与互相影响将更加广泛而深刻。因而有人概括说，21 世纪是异文化间交流的时代。新时代的特点对外语人才的培养提出了新的要求，培养国际型、复合型、应用型人才成为外语人才培养的总体目标。而在微观上，则应注重培养语言的实践能力，强调对象国文化的习得。基础教材是外语专业最基本、最重要的教材，在迎来 21 世纪之际，应该有一套能满足新世纪人才培养目标需要的、新的基础日语教材。

现在，大连外国语学院日本语学院所使用的基础教材《大学日语》(同时被指定为辽宁省日语专业自学考试教材)编写于 1989 年，发行 10 余万册。它不仅保证了大连外国语学院的教学，而且在全国的日语教学中发挥了作用。但是，教材编成至今已近 10 年，而这 10 年，无论社会形势还是日语教学本身都发生了很大变化。随着中国市场经济体制的确立，对日交流的频繁，学习日语的人数迅速增加，以培养学习者语言运用能力，包括文化理解能力为主的教学目的越来越明确。为达到上述目的，新的教学观念、教学法，如功能意念，已经应用于教学实践，在学习语言的同时注重文化背景的学习。面对这些变化，我们的教材无论在教学观念上，还是语言材料上都显得有些陈旧，已难以满足当今教学的需求。近些年来，日本出版的教材倒是很多，其中亦不乏有特点的上乘之作。这些教材大有我们可以借鉴之处，但原封不动地照搬仍然不能适用于中国日语专业大学生。因此，编写一套新的、科学的、语言理论与语言实践(包括一定的文化背景知识)有机结合的基础日语教材已成为迫在眉睫的课题。这些就是我们编写《新大学日本语》的动因。

《新大学日本语》为高等学校日语专业基础阶段教材，共分一、二、三、四册。教材包容《高等学校日语专业基础阶段教学大纲》(高等教育出版社 1990 年版)规定的全部语法现象及单词数量。一、二册以语音、基本会话训练为主，每课设有「会話」「解説」「文型」「文法」「練習」「単語」「読み物」等五部分；三、四册转入“读”的训练，在扩大词汇量的同时，增加学习者对日本政治、经济、社会、文化的理解，每课设有「本文」「注釈」「練習」「単語」「読み物」等五部分。本教材有以下特点：

1. 坚持《高等学校日语专业基础阶段教学大纲》所规定的标准，又不完全

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

拘泥于大纲，运用多种方法、手段完成大纲的要求。

2. 语言规范、地道，知识准确、全面。

3. 内容新颖，充满时代气息。

4. 注重语言实际运用能力的训练，又不偏废语言理论的传授，体现出专业日语基础教材的特点。

5. 句型法与功能意念法相结合，充分体现二者各自优势。

6. 将语法知识融入句型，使学习者通过例句理解语法。

7. 全面培养听、说、读、写、译技能，旁及文化背景知识。一、二册以会话为主课文，配以反映日本社会、文化等内容的副课文。三、四册以读解文为主课文，并配有与主课文话题相关的副课文。

8. 练习形式多元化，内容丰富，给学习者以较为充分的思考、领悟、扩展的空间。

9. 配有规范、准确的发音指导。

10. 有汉语注释及中日语言比较说明，适应以汉语为母语者的学习需要。

作为编写者，应该说在教材编写的各个环节上都没敢疏忽，但囿于水平、资料等方面，错误、疏漏仍在所难免，诚望得到专家、同行和使用者的指正。本教材为国家教育部《高校外语专业面向21世纪教学内容和课程体系改革课题立项项目》，受到了高等学校外语专业教学指导委员会的亲切指导；日本国际交流基金日本语中心专家木山登茂子女士精心地审阅了日文稿；大连理工大学出版社副总编辑王佳玉女士为教材的设计、定稿、出版付出了辛勤的劳动，在此一并表示感谢。

编写者

2001年春日

目　次

前　言

第 1 課　TOKYO 物語 …… 1
第 2 課　コロンブスの卵 …… 11
第 3 課　本音と建前の就職活動 …… 25
第 4 課　忘れられない本 …… 36
第 5 課　人の寿命と病気 …… 49
第 6 課　ちょっと待ってあげて …… 64
第 7 課　宇宙人へのメッセージ …… 73
第 8 課　迷う犬 …… 85
第 9 課　明日への希望について …… 96
第 10 課　現代の詩 …… 106
第 11 課　美を求める心 …… 118
第 12 課　ミロのヴィーナス …… 126
第 13 課　創造性の尊重 …… 138
第 14 課　相対の精神 …… 148
第 15 課　事実について …… 160
第 16 課　言葉の意味 …… 174
第 17 課　好きな言葉 …… 188
第 18 課　吾輩は猫である …… 202

注釈一覧表 …… 221
単語索引 …… 225

第1課　TOKYO物語

作―者―紹―介

村松友視は1940年生まれの作家。慶応大学哲学科卒業後、出版社に入社。雑誌編集の仕事をする。80年エッセー集「私、プロレスの味方です」で注目され、翌81年に出版社を退社。82年に「時代屋の女房」で第87回直木賞(有名な文学賞の一つ)を受賞した。都会で、何かにこだわって生きる、あやしげな人々を描いて、独自の小説世界を生み出している。主な作品に「泪橋」「夢の始末書」「上海ララバイ」「カミさんの悪口」「サイゴン・ブルー」などがある。

時男の上役である山形部長は、最近、働きアリの生態に興味をもっているのだと言って、時男を喫茶店へ誘った。

「働きアリっていうからみんな働くのかと思ったら、どうやら“働く働きアリ”と“働かない働きアリ”がいるらしいんだ」

「働かない働きアリ、ですか……」

「でね、どのグループを調べてみても、だいたい二割が“働く働きアリ”で、八割が“働かない働きアリ”だと」

「はあ」

「そこで、二割の“働く働きアリ”だけを集めてひとつのグループをつくれば、優秀なグループになると思って“働く働きアリ”だけをピック・アップしてみたんだと」

「それは考えられますね」

「ところが、そうやって“働く働きアリ”を集めてしまうと、その中の八割はやはり働かなくなっちまったんだってさ」

「はあ」

「でね、“働かない働きアリ”を集めてグループをつくったらどうなったと思う?」

「仕方なく二割は働いた、ですか」

「ピンポーン! 会社と同じだね。各部の優秀な奴を集めたら、誰かが働かなくなるからねえ」

「みんなが働かないと、誰かが働くようになるってわけですね」

「つまり、四番打者だけ集めても強いチームにはならないということだね」

「しかし、どのグループへ行ってもつい働いてしまう働きアリもいるんでしょうね」

「それはいる。そしてその逆もね……」

山形部長は、そう言って時男の顔をじっと見ていた。

その日、テレビでシンクロナイズド・スイミングを見ていた時男は、ハタと膝を打った。

これまで、何度もテレビで見たのだが、この競技の本質がいまひとつ分らなかった。砲丸投げ、槍投げ、棒高跳び、走り高跳び、走り幅跳び、それにマラソンやレスリング……このように、自然や動物に立ち向う人間の原点とつながる競技は、地味ながらいかにも説得力がある。

だが、競泳ならともかく、水の中でのダンスという世界は、人間のいったい何とつながるのだろう。しかも、あの洗濯バサミで鼻をつまんだ笑顔を、アナウンサーはやたらに美しいと連呼するのだが、時男にはどうもピンとこなかった。表彰台に立った選手の笑顔は美しいが、競技中の笑顔が美しいとはどうしても思えない。時男は、そんな違和感をシンクロナイズド・スイミングに抱いていた。

だがその日、時男はシンクロナイズド・スイミングの見方に開眼した。あれは、どこかで見たことのある世界だと直感し、じっと考えているうちについに判明したのだが、シンクロナイズド・スイミングは、実に天プラに似ている世界だったのである。

天プラのエビを油に滑り込ませ、いったん沈んだエビがいきなりスイッと表面へ躍り出てポーズをとる……この連続の呼吸は、あきらかにシンクロナイズド・スイミスグそのものではないか。それならば次期バルセロナ五輪においては、プールを円くして周囲に金網を張り巡らせていただき、演技の終った選手はそこに寝ていてもらう。タオルはもちろん和紙にして、まさに天プラナイズド・スイミングというのはいかが……この発見でしばらくは時男の独身生活の寂しさが消えたのであった。

（『中吊り小説』新潮文庫より）

質問

1. 山形部長はなぜ部下の時男を喫茶店へ誘ったのか。
2. 人間は働きアリについてどう思っているのか。
3. 働きアリの世界ではどうなっているか。
4. 会社は働きアリの世界とどういうところが似ているか。
5. その日、テレビを見ていた時男はなぜハタと膝を打ったのか。
6. シンクロナイズド・スイミングは天プラに似ている世界だと時男がそう思う理由は何か。
7. 「自然や動物に立ち向かう人間の原点とつながる競技」の中の「原点」という言葉は何のことを意味しているか。

注　　釈

1.で

「で」是接续词。出现在本课「でね、どのグループを～」之中，与接续词「それで」用法一样，用于口语。可译为“那么……”、“因此……”。

○A:王さんに電話で都合を聞いてみました。(已经给小王打过电话问他什么时候方便。)

B:で、返事はどうでしたか。(那，他是怎么回答的?)

○A:今日は日本語の時間は休講だったそうですね。(听说今天日语课停讲了。)

B:で、その時間何をしていたんですか。(那么，那个时候你干什么了?)

○今朝は水道の水が凍って出ませんでした。で、私は紅茶を飲めずに学校へ来ました。(今天早上水管冻了放不出水，因此，我连红茶也没喝就来学校了。)

○A:あの人の奥さんは日本人なんですよ。(他的妻子是日本人。)

B:で、あの人、日本語が上手なんだね。(所以，他日语说得非常好，对吧。)

2.と

「と」是格助词。出现在本课「八割が働かないアリだと」之中，表示所说或引用的内容。「と」的后面省略了「いう」。

○昔々、あるところにおじいさんとおばあさんがいたとさ。(据说，很久很久以前，某个地方住着一位老爷爷和一位老奶奶。)

○A:社長は怒っていただろう。何と言ってた?(社长生气了吧，他说什么了?)

B:お前はくびだと(言ってた)。(他说要把你给解雇了。)

3.そこで

接续词。表示前项为后项的起因。可译为“于是”、“因此”等。

○翌朝は晴天だった。そこで私は早めに出発した。(第二天早上天气很好，因此我提前出发了。)

○ゆうべ疲れてとても眠かった。そこで、夕食をとってからすぐ寝てしまった。(昨晚累了困得要命，因此吃过晚饭后就立刻睡觉了。)

○この家はとても安い。そこで私は思い切って買うことにした。(这个房子很便宜，因此我下决心把它买下。)

○最近はよく午後になって雨が降る。そこで出かける時にいつも傘を持っていくことにしている。(最近午后经常下雨，因此我总是带着伞出门。)

4.「～なっちまった」

这是「～なってしまった」的口语形式。

5.だが

接续词。连接下句，表示逆接。用于口语。可译为“虽然”、“可是”等。

○品物は確かにいい。だが、あまり値段が高すぎる。(东西是好东西,可是太贵了。)

○今日は暖かい一日でした。だが、明日からはまた寒くなるそうです。(今天很暖和,可是,据说从明天起天又要变冷了。)

○私は何度も父に頼んでみた。だが、父はどうしても許してくれなかった。(我已经求父亲好几次了,可他怎么也不答应。)

○これはとても難しい。だが、失敗を恐れてはいけない。(这确实很难,可也不能害怕失败。)

6.「～ならともかく」

由接续助词「なら」与副词「ともかく」构成,可译为"如果……则另当别论"、"如果……则没问题"。

○貯金があるならともかく、安サラリーマンでは車のローンは簡単には払えない。(如果有存款的话就另当别论,可对于收入低的工薪阶层来说,支付汽车贷款可不是件容易的事。)

○戦わないならともかく、戦う以上必ず勝つ。(不战则已,战则必胜。)

○勉強しているならともかく、遊んでばかりいて成績がいいはずがない。(如果学习的话就没问题,可只玩不学习就不会取得好成绩。)

7.どうしても[動詞の未然形]ない

这是表示强烈否定的句型。由副词「どうしても」与助动词「ない」构成。可译为"无论如何也……"、"怎么……也……"等。

○どうしても見つからない。(无论如何都找不到。)

○この問題はどうしても分からない。(这个问题我怎么也弄不明白。)

○あの人は若いですね。どうしても50歳には見えません。(他真年轻呀,怎么也不像50岁的人。)

○あの人に頼んでみたが、どうしても承知しなかった。(我求过他了,可他怎么也不答应。)

8.[体言]に似ている

这是表示两者相似的句型。「に」是格助词,表示状态比较的基准。可译为"跟……相似"、"像……"。

○息子は父親に似ている。(儿子长得很像父亲。)

○この花びらの形は菊の花の花びらの形に似ている。(这种花瓣的形状和菊花的花瓣很像。)

○親に似て、そそっかしい。(和父亲一样是个马大哈。)

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

一、次の文の＿＿＿のところに入れるのに最も適当なものを、それぞれ①～④の中から一つ選びなさい。

1. ＿＿＿老人問題を解決するにはよい方法がないようだ。
   ①どうにか　②なんとか　③どうしても　④どうやら
2. 部長は時男の顔を＿＿＿見ていた。
   ①はっと　②じっと　③ぱっと　④やっと
3. ＿＿＿努力が足りない。
   ①いまひとつ　②さきほど　③つい　④いったい
4. あんな花は美しいとは＿＿＿思えない。
   ①いかにも　②どうしても　③はるかに　④かならずしも
5. そんなことをいうと、＿＿＿ほしそうに聞こえるから嫌だ。
   ①まさか　②もし　③いかに　④いかにも
6. 義理などといっても、今の若者には＿＿＿こない。
   ①しんと　②なんと　③きっと　④ぴんと

二、次の(　　)の中に入れるのにもっとも適当なものをA～Dの中から選びなさい。

A.そこで　B.それで　C.で　D.だから

1. そうか。(　　)わかった。
2. 収入が千円、支出が2千円。(　　)損害は、差し引き千円である。
3. 汽車は規定のスピードをオーバーした。(　　)運転士はブレーキをかけて列車のスピードを落とした。
4. この家はとても安い。(　　)私にも買える。
5. 先生がとても怒ったんだよ。(　　)もう一遍掃除をやり直すことになったんだ。
6. 財布を落としてしまった。(　　)やむなく家まで2時間も歩いて帰ったというわけだ。

三、次の文の＿＿＿がついている言葉の意味を解釈しなさい。

1. つまり、四番打者だけ集めても強いチームにはならないということだね。
2. テレビでシンクロナイズド・スイミングを見ていた時男は、ハタと膝を打った。
3. 自然や動物に立ち向かう人間の原点とつながる競技は、地味ながらいかにも説得力がある。
4. 水泳ならともかく、水の中でのダンスという世界は、人間のいったい何とつながるのだろう。

5. 時男はシンクロナイズド・スイミングの見方に開眼した。

四、次の文の＿＿＿のところに言葉を入れて、文を完成しなさい。

1. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿に興味を持っています。
2. ＿＿＿＿＿＿っていうからみんな＿＿＿＿＿＿のかと思ったら、どうやら＿＿＿＿＿＿らしいんだ。
3. つまり、＿＿＿＿＿＿ても＿＿＿＿＿＿にはならないということだね。
4. いったい＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿のだろう。
5. どうしても＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ないことがある。
6. 彼は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿に違和感を抱いている。
7. ＿＿＿＿＿＿＿＿は＿＿＿＿＿＿＿＿に似ていますね。

単　語

【本　文】

◎時男(ときお)	[人名]	时男
◎上役(うわやく)	[名]	上司,上级
②山形(やまがた)	[人名]	山形
④働きアリ(はたらきアリ)	[名]	工蚁
◎割(わり)	[造語]	十分之一,一成
◎優秀(ゆうしゅう)	[名·形動]	优秀,杰出
①④ピックアップ	[名·他サ]	选拔,选出
①ピンポーン	[副]	乒乓(表示答对了,正确)
①奴(やつ)	[名]	(蔑语)小子,家伙,东西
⑤四番打者(よんばんだしゃ)	[名]	4号击球员(棒球队中最有实力的击球员)
①チーム	[名]	队,组,团体
◎逆(ぎゃく)	[名]	相反,反过来
⑨シンクロナイズド・スイミング	[名]	花样游泳,水中芭蕾
①はたと	[副]	(拍击状)啪。猛然,一下子
膝を打つ(ひざをうつ)	[連語]	一拍大腿(恍然大悟状)
①競技(きょうぎ)	[名·自サ]	竞技,比赛
◎本質(ほんしつ)	[名]	本质
◎砲丸投げ(ほうがんなげ)	[名]	扔铅球
④③槍投げ(やりなげ)	[名]	投标枪

④③棒高跳び(ぼうたかとび)	[名]	撑竿跳
④走り高跳び(はしりたかとび)	[名]	跳高
④走り幅跳び(はしりはばとび)	[名]	跳远
◎マラソン	[名]	马拉松
①レスリング	[名]	摔跤
④立ち向う(たちむかう)	[自五]	对抗,应付
④説得力(せっとくりょく)	[名]	说服力
①だが	[接]	然而,不过
◎競泳(きょうえい)	[名·自サ]	游泳比赛
①ともかく	[副]	暂且不谈
①ダンス	[名]	舞蹈
⑤洗濯バサミ(せんたくばさみ)	[名]	晒衣服夹
①笑顔(えがお)	[名]	笑脸
③アナウンサー	[名]	播音员
◎やたら	[形動]	一个劲儿地;胡乱地,随便地
①連呼(れんこ)	[名·他サ]	连呼,连声大喊
④ピンとこない	[連語]	领会不了,难以理解
◎表彰台(ひょうしょうだい)	[名]	颁奖台
②③見方(みかた)	[名]	看法
◎開眼(かいげん)	[名·自サ]	领悟,领会
◎直感(ちょっかん)	[名·他サ]	直觉,直感
◎判明(はんめい)	[名·自サ]	判明,弄清楚
◎油(あぶら)	[名]	油
④滑り込む(すべりこむ)	[自五]	滑进去
◎いったん	[副]	暂时,暂且
スイッと	[副]	轻快地
③表面(ひょうめん)	[名]	表面
④躍り出る(おどりでる)	[自下一]	跃出
①ポーズ	[名]	姿势(造型)
◎連続(れんぞく)	[名·自他サ]	连续
◎呼吸(こきゅう)	[名·自他サ]	节奏;要领;呼吸
②あきらか	[形動]	明显的
④③そのもの	[代·接尾]	其本身
①次期(じき)	[名]	下一次

③バルセロナー	[地名]	巴塞罗那
◎①五輪(ごりん)	[名]	五环(奥运会)
◎金網(かなあみ)	[名]	金属网,铁丝网
⑤張り巡らす(はりめぐらす)	[他五]	圈围,围上
①和紙(わし)	[名]	日本纸
①まさに	[副]	当真,确实,恰如
⑨天(てん)プラナイズド・スイミング	[名]	油炸大虾芭蕾

【注　釈】

③◎晴天(せいてん)	[名]	晴天
②思い切って(おもいきって)	[副]	下决心,大胆地,毅然决然地
③倍数(ばいすう)	[名]	倍数
③割り切る(わりきる)	[他五]	除尽
◎様態(ようたい)	[名]	状况,样态
◎平常(へいじょう)	[名・副]	平常,平时,平素
◎貯金(ちょきん)	[名・自他サ]	储蓄,存款
③安(やす)サラリーマン	[名]	低薪职员
①ローン	[名]	贷款,借款
③花びら(はなびら)	[名]	花瓣
◎菊の花(きくのはな)	[名]	菊花
⑤そそっかしい	[形]	举止慌张,冒失,轻率

【練　習】

①努力(どりょく)	[名・自サ]	努力
②義理(ぎり)	[名]	情义,情分,人情
◎損害(そんがい)	[名・他サ]	损失,损害,损伤,损毁
◎②差し引き(さしひき)	[名・自他サ]	扣除,减去
◎規定(きてい)	[名・他サ]	规定
③運転士(うんてんし)	[名]	司机
ブレーキをかける	[連語]	刹闸
◎列車(れっしゃ)	[名]	列车,火车
②落とす(おとす)	[他五]	丢失,遗失;使…落下
③やむない	[連語]	不得已,无奈,毫无办法

読み物　山上の景観

辻まこと

例えば「世界」という単語。そこから普通は、国際情勢とか諸外国のニュースとかいった人間社会の世界のことを考えるらしい。

ところで、わたしはいつもこの単語から、中学生のときに登った甲斐駒ケ岳、その頂上の眺望に驚いて茫然としたときのことを思い出す。

わたしの視野、わたしの目玉は、それまでこんな広がりを入れたことはなかった。わたしは無限とか永遠といった言葉が見えるものだとは想像できなかったと、そのとき思ったものだ。

七合の小屋に泊まって、まだ夜明けにならないうちに起こされたわたしは、眠気の覚めないぼんやりした頭で頂上にたどり着いた。夏だというのになんと寒いことだろうと震えている身には、御来光などどうでもいいような気分だった。わたしがおじさんとよんでいた引率者のI氏は、わたしの肩を強くたたいて、「しゃんと目を覚ませ。」としかった。

東の空がスミレ色に変わってきた。脚下一面、暗い雲海がだんだんわかってきた。空は刻々と微妙に変化し、スミレ色の上空に、とても、この世では二度と見られまいと思うような透明な薄いセルリアン・ブルーが現れた。じっと眺めていると、それはだんだんコバルトに染まっていく。遠い東天に懸かっていた三筋ほどの棚雲の縁が、淡い緑から急速調で濃いオレンジに変化したと思っているうちに、一筋の黄金色のハープの絃が天心に矢になって走った。強いトランペットが耳元で鳴ったかと思った。わたしはいっぺんに眠気が飛び去って、この世界誕生の序曲の前に緊張して佇立した。光の矢は次々と天心を貫き、やがて正視できぬ輝きの中心がせり上がったその瞬間、世界はその光の矢に洗われて、それまでの姿を一変し、闇のエモーションはあとかたもなく消え去った。明るい。ただ明るい青い空気がこともなく天地に満ちて、遠い山波の間に沈澱していた雲海は、次第に形を崩して刻々とぬぐわれていく。

頂上に立っていた人は十五、六人だったと思う。だれもかれも彫刻のように静止していて、ばんざいを叫ぶものは一人もいなかった。だれもかれも、その大きな感動に縛られてただ沈黙するのみだった。

わたしは心の中でセカイという言葉を反すうしていた。何度もセカイセカイと繰り返していた。どんな辞書にもなかった理解がそこにあった。生まれて初めて高い山に登って、こんなすばらしい光景に巡り合った自分は本当に幸福だと思った。

口に出しては言わなかったが、心の中でわたしはI氏に深く感謝した。山上の景観に

は人間の世界を超えた認識があるし、単なる自然をも超越した思想があるように、わたしは感じている。

幼い日に、「そこには無限とか永遠といった言葉が見える」と書いた日誌の表現は言葉足らずなものだが、その実感はいまだ死なずにわたしの心の底に生きている。

だれだって、自分の視野を超えることなどできはしない。あとは信じることができるかできないかだけだ。しかし山上の景観には、世界という全体であり一つであるものの存在を信じさせる力があった。

辻まこと　一九一三(大正二)——一九七五(昭和五〇)　東京都出身。詩人・画家。詩集に「虫類図譜」、画文集に「山からの絵本」などがある。

《出典》「辻まことの世界」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com